令和２年度　第２回学校評議員会　議事概要

2020.11.20

１　日時　令和２年 11 月 18 日(水)　14 時 30 分～16 時 40 分

２　場所　東生会館２階　大ホール

３　出席者(敬称略)

学校評議員　４名

増田　泰之　　同窓会会長(同窓会関係者)

柳谷　郁子　　知識人・作家(学識経験者)

江口　益男　　民間企業(企業関係者)

瀧川　吉弘　　地域代表・自治会長(自治会等関係者)

※石田　和也　保護者代表・PTA 役員(保護者)・村上　忠幸　大学教授(学識経験者)は欠席

校内委員メンバー 12 名

臼井　研二(校長)、山田　潔(特任専門官・SSH 担当)、藤原　勝博(教頭)、松井　康文(事務長)、肥塚(総務部長)、川勝(SSH 推進部長)、有馬(生徒指導部長)、中山(進路指導部長)、髙濵(学校評価委員長)、勝木(１年次主任)、小谷(２年次主任)、岩井(３年次主任)

４　内容

(1)　2020 年度第 3 回兵庫・関西キャタピラーSTEM 賞学生部門 授賞式

学校評議員会に先立ち、表彰式が行われた。これは、2 年次生徒の山本夏希が応募した論文「未来の都市について」が、厳正なる審査の結果、最優秀賞を受賞したことに伴うものである。キャタピラー社から 2 名が来校し、授賞理由と表彰を行った。また、本人の挨拶、写真撮影を行った。

(2)　校長挨拶

兵庫県は STEM 教育に Art の A を加えた STEAM 教育に力を入れている。教育委員会も外国人に特別免許を与えて採用し、STEAM 教育の拠点校に配置しようとしている。ICT 環境を含め、少しずつ改善に向かっているが、まだまだ変わっていくべきところがあるので、意見をお願いしたい。

(3)　学校からの現況報告等

①　東高紹介動画上映(中学生向けオープンスクールでも上映しているもの)

②　学校概要　(教頭)

(ｱ) 東高祭や体育大会、修学旅行など主な行事が軒並み中止となった。

(ｲ) コロナ禍の中で様々なことに挑戦している。

・多様な価値観に触れ、視野を広げる講演会の開催

11 月 24 日　上野千鶴子氏(東京大学名誉教授)

12 月 14 日　誉田屋源兵衛氏(京都の帯職人)

2 月 1 日　　玄田有史氏(東京大学教授)

・年次行事

行事がなくなっている中で、「クラスレク」や「1 日バス旅行」など感染予防を図りながら、年次ごとに行事を企画、実行している。

・オーストラリアの高校とのオンライン交流会

(ｳ) SSH 事業

・1 年次生徒全員による探究成果発表会を 2 月 9 日に行う。

・サイエンス・ラボ

理科や数学に親しんでもらうため、近隣5校の中学生を対象に、放課後本校にて教室を開催した。

8月24日　「化学のいろいろ」

9月25日　「磁石で作ったダンシングリキッド」「酵母カプセルで発酵実験」
「デンプンを詳しく知ろう！」

10月30日　「低気圧を作ろう！」「図形に強くなろう！」「太陽の色は何色ですか？」

・アラカルト講座、サイエンスカフェ

大学の先生と企業研究者計6名を招き、午前中は科学や研究をテーマに講演、午後からは座談会形式でディスカッションを行った。

・外国人実習助手

9月よりHenry James Snell先生(物理専門)が着任

イングリッシュ・ラボと題して、All Englishによる科学実験を行った。

・科学倫理教育研修会

・科学部の活動

・教職員の研修

・学習環境の整備

(ｴ) 新聞記事の紹介

質疑応答

【委員】

タブレット164台では生徒数に足りないのでは？

生徒は全員スマホを持っているのか？

【校長】

ほとんどの生徒がスマホを持っている。

タブレットが足りないのは事実だが、県としてはタブレットは個人もちとし、専用の貸付金も準備する方針。

【委員】

個人が購入するタブレットのメーカーはバラバラでもよいのか？

【校長】

バラバラでも構わない。

(4)　意見交換　「東高の良さ、これからも残したいもの」「東高が変わっていくべきこと」

【委員】

東高には「情」・「人間味」のある生徒が多い。

SSHで理数系教育に力を入れるのは良いが、人文系も大切だと感じる。

いずれは理系・文系の区別のない社会になるだろうが…。

【特任専門官】

SSHは確かに理数系教育に力を入れるが、文系を排除するものではない。人文科学の探究も大切だし、文系にとっても総合的な探究の時間で「探究活動」を行っていく。

【校長】

東高は110周年行事の際、「令和コンサート」に大勢の同窓生が参加したり、寄付金を「令和の白壁」や「弥生の庭」に充てるなど、非常に文化的な校風があると感じている。そういう面を大切にしながら、今後の教育活動を推進していきたい。

【委員】

こういう時代だからこそ、すぐに代替できる、すぐ作れるような人間になってほしくない。

【委員】

我々の時代より礼儀正しく、躾が行き届いていると感じている。何より式典は素晴らしいものがある。また優しい生徒が多い。コロナで困っていると聞いているので、卒業生としてはバックアップしない訳にはいかない。

オーストラリアとの国際交流が始まったが、英語教育には力を入れてもらいたい。

【委員】

理系と文系を分ける必要はないと思う。ノーベル賞学者の多くがもとは文学青年である。

生徒には留学させる機会を与え、将来、世界に雄飛する生徒を育ててほしい。

東高生は良くも悪くも謙虚である。

【委員】

高校をどう評価するかというのは難しい問題である。東高が何を目指していくか、具体的に示す必要がある。情や優しさも必要だが、アグレッシブさや将来のビジョンも必要だと思う。

【校長】

これからの教育は、どのようにして人生をより良いものにしていくかという大きな目標に変わってきた。職員も悩んでいるところだと思う。

また、PTAの方から、ホームページが見にくいという意見を多く聞き、PTAの支援を受けてホームページを刷新する予定である。

【委員】

東高は単位制に変わって以降、その恩恵を受け続けてきた。今でもそれが尾を引いていると思う。いろいろ意見はあるが、サンデー毎日に取り上げられる進学実績も一つの基準であることは確かである。

【委員】

野里小学校でブロック塀を壊す話が出た。事務方は杓子定規に基準を当てはめようとするが、白い塀は野里小卒業生のアイデンティティーだと私は思う。東高の白壁も同様で、母校や姫路に対する郷土愛を育ててほしい。

【委員】

１人の優秀な生徒を見出すこと、才能を見出すことは大切。宇宙飛行士の野口氏は子供のころSF小説を読むのが本当に好きだったと聞いている。眠っている才能があるかも知れない。一人の生徒を育てることによって、多くの生徒が育つこともある。

【校長】

東生会の奨学金にはいろいろあるが、特にスーパーKは桁違いにすごいものである。優秀な生徒が金銭的な事情で進学をあきらめなくてよいようにという意思のこもった奨学金である。

自転車置き場に北高との共用部分があり、毎日、３年次の先生方の手が取られているのが気にな

っている。生徒教室棟のトイレは奇麗になったが、他の校舎や体育館周りのトイレはまだまだ変わらない。

【委員】

東高から女性の政治家を輩出して欲しい。正しい日本語が使える大人に育ててほしい。

【委員】

マニュアル人間がいかに多いか。創造性を育ててほしい。

【委員】

現代の日本はあまりに平等意識が強く、みんな平均値で良いと考えてしまい、上を目指す意欲がない。トップを目指す意識は大切で、トップを目指さなければ２位や３位にすらなれない。

【校長】

教育は「個別最適化」に向かっている。本校もその方向を目指して改革を進めていく。

【委員】

日本社会は閉鎖的で、表と裏があり、いろいろな経験をすると思うが、強い人間になってほしい。また、正解のないことばかりである。

【委員】

社会は矛盾だらけ。矛盾にぶつかっても壊れない、つぶれないことが大切。それには腹を割って話せる人を作っておくこと。当事者は悩んでいても周りの人は答えを持っているということがある。

(5)　諸連絡

次回開催予定　3 月 5 日(金)　14:30～

1 週間前程度には資料を送る。

5　閉会挨拶